

## 第7回 都市計画マスタープラン見直し検討会議 議事録

日 時：平成27年10月29日(木)15:00～

場 所：消防局庁舎4階災害対策本部室

参加委員：16名 傍聴者1名

事務局：都市計画課、株式会社 集計画研究所

1. 開会
2. 第6回検討会議における意見等に対する考え方について
3. 議事（都市計画マスタープランの改定について・都市計画マスタープラン改定案について）

### ●事務局からの説明後、議事

委員長 本日の検討会議が終わると、案の形でパブコメに出していくということで、この場で精査する意見を出していただければと思う。案の内容や今後の進め方についても意見、質問があればいただきたい。

また、事務局には、10月23日の都市計画審議会で諮問されたときに出た意見があれば紹介していただきたい。

事務局 都市計画審議会は3回の開催を予定している。第1回の10月23日の開催では、案の説明として、推進方策よりも前の第4章までを説明したが、特に意見は出なかった。

委員長 意見が無いというのは、関心が無いのか、お任せするという事なのか、どんな感じなのだろうか。

事務局 検討会議で皆さんと議論してきた経過を説明しているので、こちらに委ねる部分もあったと思うが、全体を説明しての意見は無かったと理解している。

委員長 これからのパブリックコメントにも関わるかもしれないが、都市計画マスタープランの内容は抽象的なところもあり、総論賛成で良いという感じで受け取られる傾向がある。パブリックコメントを行って意見が出ないと、反対されないという意味では良いが、やろうとしていることを受け止めてもらえず、課題があっても議論されていないことにもなる。そうなるとう改定している意味がなくなる。今回は、どうしてもこの改定の考え方をピーアールできるか、実際に絵に描いた餅ではなく、今後どう実践的に実現していくのかなど、そうした意見を出していただければ幸いである。

委員 この案は、これまでの議論を踏まえて丁寧につくっていただいたと思うが、さらに

良くするために検討していきたい。横須賀市の都市マスには、人口減少を抑制するという指針もあるが、目標人口は減少する。そうなっていく状況で、147 頁では、コンパクトな都市づくりのイメージ図のように、都市拠点、地域拠点、周辺市街地に都市機能、居住機能を集めている。逆に郊外市街地はゆったり暮らすということもあるが、環境によっては将来、撤退するかもしれない。その将来の撤退に備えるゾーンも明記されている。これをスマートに実現していくために、154 頁にまちづくり諸制度の活用イメージが載っている。これら諸制度のほとんどは、現状の維持や拠点部分の集め方をうまく動かしていく制度だと思う。それに対して郊外住宅地の低密度化や将来の撤退を秩序よく実現する制度は無い。国もつくっていない制度なので書けないが、自治体でそれぞれの地域の特徴を状況に応じてどうすべきかを議論して、逆に国に提案し、制度化してもらうことをやっていかなければならないと思う。そういう意味で、可能であれば 154 頁のどこかに、「郊外市街地の低密度化や撤退を秩序よく実現するための制度の検討」といったことを入れていただけると良いのかと思う。

事務局 事務局としても悩んでいた部分で、縮退、低密度化していくところに、どういった施策を投じることがスマートなのか、今の段階では良い手だてを書くに至らなかった。横須賀市としては、来年度、立地適正化計画の都市機能誘導区域を指定し、2 年かけて居住誘導区域を定めていこうという考えを持っている。居住誘導区域の指定は、緩やかな誘導ということになるが、なんらかの施策と併せて検討していくことができないかと考えており、「スマートな縮退に向けて～」という一文を加えることは、検討させていただきたいと思う。

委員長 居住誘導区域という言葉が出ていたが、具体的にどういったもので、今の意見に対してどのような可能性、限界があるのか解説していただきたい。

事務局 予算もこれからという段階なので事務局の構想として解説する。都市再生特別措置法に基づく立地適正化計画という国が定めた新しい制度の考え方は、これからの人口減少社会、高齢社会を見据えて、緩やかに人口の集約を図りコンパクトな都市にしていこうとするものである。その制度の中には、生活利便機能や公共機能を集約する都市機能誘導区域と、ある程度の人口規模を維持して居住する区域を定める居住誘導区域がある。行政としては、これを現行の市街化区域と市街化調整区域に変わる第 2 の制度のように捉えがちだが、国からは緩やかに誘導する制度という説明を受けている。

委員長 誘導区域でない区域になった場合は、自然まかせなのか、なんらかの行政的な行為が可能なのか、その辺りを説明してほしい。

事務局 指定した区域から外れたところに、本来集約すべき機能が進出してきた場合、また、都市機能誘導区域に斡旋すべき施設が他の区域に進出を計画された場合は、行政側

から斡旋や勧告できる制度となっている。ただ、斡旋や勧告に従わなくても罰則を受けることはない。居住誘導区域についても、一定規模以上の開発行為がこの区域以外で計画された場合、同様に斡旋や勧告が行政に求められている。

委員長 積極的に縮退していくやり方は今のところ無いという理解になるが、先ほどの意見を踏まえた追記をできる範囲でお願いしたいと思う。

148 頁の追記した部分について気が付いたことを述べたい。②の「便利な場所に居住者を集中させ」という表現は、ストレート過ぎるきらいがあるので、この文章を見直してもらえたらと思う。

③の「良好な自然環境と一体となった空間や環境が重要なものも多くありますが、住宅地や商業施設との共存が可能なものもあります。」という部分は、意味が分かりづらいので、一般の人にも分かるように書いてもらいたい。

「(2) 公共交通の再編への備え」とあるが、「再編への備え」というと一般に、津波など怖いものから不利益を被ることに備えなければいけない、というニュアンスに感じられる。この部分をもう 1 度、解説していただきたい。

事務局 「公共交通の再編への備え」は立地適正化計画も見据えたものになっている。人口減少社会では、今の公共交通の水準を将来にわたって維持することに困難が生じることが予想される。また、高齢化によって自家用車の運転が困難になる市民も郊外では増えてくるだろう。そのため公共交通という視点は重要であり、今後さまざまな取組みの中で注視していく必要がある。そのように考えて組立てた記載になっている。

委員長 私の日本語の理解では、意味が逆になっていたのかと思う。「公共交通の再編」は困るので備えるのではなく、この政策を実行していくと公共交通を再編しなくてはいけないので、準備をしていくということで理解したが、もう 1 度、言葉の使い方を検討していただければと思う。

149 頁の(4)に「民間施設の立地を喚起する新たな制度の創設」とあるが、制度の創設について横須賀市ではどのように考えているのかお聞きしたい。

事務局 新たな制度の創設について、現時点で説明はできないが、都市計画マスタープランの考え方に基づいた施策の展開が、今後 20 年の間に検討される形になると考えている。その備えということでの記述になっている。

委員長 立地誘導させたい場所と施設があった場合に、それをスムーズに進めるために制度の創設を行うのか、それとも税制や国の制度の活用などいろいろなものを組合せながら考えるものなのだろうか。制度の創設というと唯一の制度というイメージになると思う。

事務局 横須賀中央エリアの市街地再編では、建物の再更新に向けたアクションプランに取

り組み、都市計画制度で活用できる規制緩和や税制面の優遇や、税制面以外の支援策として助成金を設けている。また、人的支援のソフト施策として、再開発の機運があったときに専門家を派遣するなど様々な支援策を講じてきている。今後、検討していく中でも、ハード面、ソフト面を含めた様々な組合せの展開をしていければと思う。

委員 完成形に近づいているので、大きなことよりも小さなことでの指摘になる。12 地区に分けてつぶさに特徴を出し、都市魅力の創造方針が新たに加わったが、同じような書きぶりで特徴が見えてこない。そこで例えば 76、77 頁に追浜地区の都市魅力の創造方針の図面を見開きで大きく使い、コンテンツに関連した画像を散りばめた方が一層イメージしやすいと以前に提案したが、製本の問題などの事情でこのような見せ方になっていると思う。そうであれば、図の情報と写真がリンクされているので、写真にナンバーリングして図に位置を示す配慮があっても良いのではないかと思う。

事務局 事務局でも見せ方には悩み、見開きにできないかと検討してきた。ナンバーリングという新たな提案もあったので、引き続き検討させていただきたいと思う。

委員 文章の漢字と平仮名の使い方について、例えば 32 頁の④では「～できる～」と「～出来る～」とあり、統一されていない。全部は指摘できないが、他に「目指します」、「更なる」なども漢字と平仮名が使われている。  
文末の表現では「図っていきます」と「図ります」、「進めていきます」と「進めます」という違いや「強化」、「推進」、「誘導」の後にも「していきます」と「します」という表現が散見される。最後に表現の統一をチェックしていただければと思う。

委員長 どこかの段階で、表現統一の最終チェックをお願いしたいと思う。

委員 文章も含めてレイアウトについても見やすく分かりやすくなるように検討を詰めてほしい。白紙の部分なども気になる。工夫をもう一歩していただきたい。また、例えば 1 冊ものとは別に、地区別のプランごとに冊子をつくることも考えられるのではないかと思う。

委員長 その点について、予算の関係もあるだろうが、考えや検討の余地はあるのだろうか。

事務局 別冊にすることは難しいと思っているが、工夫できる部分の検討は引き続きしてきたいと思う。

委員 地区ごとに別冊をつくることは予算的に難しいと思うが、とても良い考えだと思う。今後のスケジュールに関しての提案として、各地区のコミュニティセンターにその地区のマスタープランの考えを掲示していただけると良いと思う。今回の地区別につくった内容は良くできている。それぞれの地区のまちづくりの目標の一文は、的

確に将来を考え、なおかつ今の地区の素晴らしさを盛り込んでいる。それを地区の方がコミュニティセンターなどで見ることによって、地区への愛着も増え、地元愛を育む。また都市計画の教科書的な役割も担い、身近に都市計画を周知する良い機会になると思う。手作りのものでも掲示していただけるとありがたいと思う。

事務局 事務局としても同じことを考えていた。地区別資料の抜粋版のようなものを手づくりで示せないかと検討していたところなので、実現させたいと思う。

委員長 シンポジウムの練習のような感じだが、会場からもそのような話やアイデアがいろいろと出てくると良いと今から思っている。

委員 地区別の部分はパブコメにかけると多くの市民の目に留まるので、表現的なことについてお願いをしたい。1つは、75 頁などの土地利用・交通整備の方針の図に、凡例があると良いと思う。全体の土地利用方針を踏まえて、地区別のカラーリングがされているようだが、それとリンクさせるよりは、それぞれに凡例があった方が分かりやすい。

もう1つは、例えば106、107 頁の久里浜地区の都市魅力の創造方針に、文章では北久里浜の観点が入っているが、載せている写真は走水に偏っている。北久里浜のまちづくりも重要であり、他地区との境界領域の部分も見直して記載していただけると良いと思う。また、118 頁の久里浜地区の写真は4枚だが、久里浜には他にもいろいろの資源があり、もっと載せる方法があると思うので検討していただきたい。

委員長 その点は検討していただくということをお願いする。

委員 本編と概要、それぞれに必要なと思うが、シンポジウムで一般市民から意見が活発に出され盛り上げるようにするには、概要の資料でも一般の方には読み込まないと難しいという印象がある。地区別版も良いと思うが、例えば、小学生高学年に1時間の授業で説明するための資料という感覚で短いものをつくると、分かりやすい言葉遣いで写真を豊富に使い一般の方にも見やすいものがつくれるという視点もあると考えた。

委員長 今の意見は、パブコメ期間中に向けてということか、さらに先の出来上がってからのことだろうか。

委員 その両方について考えている。

委員長 事務局では、概要について、さらにパッと見て意図が伝わるようなものも考えているだろうか。

事務局 パブリックコメントまでとなると時間的に難しいが、本編が出来上がった後に、都市計画マスタープランを市民向けにアピールするというので、ダイジェスト版を

別途用意する。その際に、今いただいた意見も踏まえて、可能な限り分かりやすい内容に組立てていきたいと思う。

委員長 参考資料1のスケジュール最後にあるように、確定したものを周知するための「ダイジェスト版の印刷製本」が載っている。

委員 前回と今回の検討会議で具体的に示された地区の方針については認識した上で、共感もしている。ただ検討会議に参加して疑問に思うのは、まちづくりにおける大きな捉え方、つまり横須賀市には様々な問題点、課題も多くあるが、それらを一括りにできるような明確なコンセプトが、いまひとつ見えてこないということである。例えば「豊かな暮らしと、いきいきした交流をはぐくむ都市」という漠然としたコピーがあるだけで、分かりやすい明確なものが今まで感じられなかった。以前、まち興しの仕事に携わったが、やはりコンセプトがはっきりしていないと、細かい部分も見えてこないという経験があった。横須賀市の10月のタウンニュースに、横須賀の進む道として、人口減少が様々な影響する中で、「観光立市」という言葉を使っている。他にはない横須賀のいろいろな資源を使い、人口減少で経済や産業が沈滞している部分を補うということで、これしか道はないという言い方をしている。その辺で横須賀のまちづくりのコンセプトを考えるとどうなるのか、この会議に参加しながら考えてきた。考え方として、交流人口の増大は欠かすことができなと思う。また、自然減少への対策は難しく人口減少になって行くが、その状況に対抗できる新しいコンセプトを持ち、やっていかないといけないと感じている。今までの考えに異論はないが、何か強いものが感じられないという気がしている。

事務局 これからの横須賀にとって大きな視点は、人口減少の社会にいかに向き合っていくかということにある。ただそれだけではなく、地域に眠る魅力に光をあてて、まちづくりに転化していこうということもあり、都市魅力をもう一つの大きな柱として組立ててきた。まちづくりは1つの処方箋だけで解決できるものではないので、いろいろな角度から光をあてて取組まなくてはと考えている。そのため多くの内容を盛り込んだことで、全体がぼやけたと捉えられたのかもしれない。

委員長 この会議の最初の頃には交流人口といった抽象的な議論の前に、外から人を呼び込むのか、それとも人に移って来てもらうのか、あるいは流出をくい止めるのかといった議論をした覚えがある。その辺の決着がまだついていない。あまりに多く人が来てくれてしまうと渋滞が起こるなど、悩ましいこともあるという意見もあり、はっきりと人を呼び込む方向へはいかなかったと思う。その辺のことを含めて、今の時点で、意見や詰めていくべき点、アイデアがあれば出していただきたい。交流人口に関しては、観光と一言で言えるものでもなく、外との関係をどう捉えるかということだと思う。

委員 今まで見てきたまちづくりの方針は、他市にもあるいろいろな課題に対する考えと

同じように見える。つまり横須賀らしいことを考えるには、どうしたら良いかというところで、他都市に見られない横須賀のいろいろな良いところを一括りにした言葉がほしい。それがコンセプトということになる。言葉にするのは難しいが、「豊かな暮らしと、いきいきした交流をはぐくむ都市」という抽象的ではない、具体的な言葉で目標を立ててやっていく必要があるという気がしている。

事務局 ぜひシンポジウムにも来ていただき、そうした議論もできればと思う。

委員 交流人口については、急に多くの人に移って来てもらうことは厳しいので、今の段階では皆さんに憧れてもらえるような仕組みづくりが必要だと思う。

委員長 他に意見等はないようなので、これで今日の議論は終了とする。ありがとうございました。

#### 4. その他

- 事務局より、横須賀市マスタープラン検討会議意見等提出シートについての説明と依頼及び次回スケジュールについての説明を行った。

#### 5. 閉会